

1 循環器疾患患者における睡眠呼吸障害の  
2 検討

3  
4 ○梅津華織 後藤光 木村豊 中村文隆(帝京大学  
5 ちば総合医療センター 検査部)

6  
7 【目的】中枢性無呼吸(CSA)は閉塞性無呼吸(OSA)と  
8 異なり AHI の体位変化が少なく、心不全患者に多い  
9 と言われている。今回 CSA 特有のチェーンストーク  
10 ス呼吸(CSR)に注目し、AHI の体位変化、心機能低下  
11 を認めるか比較検討した。【対象】当院循環器内科入  
12 院患者で PSG 簡易検査、心エコー検査を実施した 40  
13 例。男性 33 例(58.7±13.7 歳)、女性 7 例(53.1±10.1  
14 歳)。【方法】一終夜 PSG 簡易検査機器(LS-300)にて  
15 呼吸、呼吸努力、SpO<sub>2</sub>、体位変化を記録し、マニ  
16 ュアル解析を行った。所見として、1分以上明らかな  
17 CSR 所見の見られた患者を CSA 移行傾向にあるとし、  
18 全体の AHI、仰向 AHI、側臥位 AHI、体位変化 AHI、  
19 及び心機能と比較検討した。【結果】1分以上 CSR の  
20 所見のあったものは 17 例(CSR 群)、無いものは 23  
21 例(nonCSR 群)であった。年齢(55.9±12.7 歳 vs61.4  
22 ±13.6 歳 p<0.19)、BMI(26.0±5.8vs26.2±5.2  
23 p<0.93)と有意差は見られなかった。そして CSR 群の  
24 CSA・AHI は 4.2±8.8 回と CSA とは診断のできない値  
25 であった。CSR 群、nonCSR 群共に全体の AHI は(29.7  
26 ±14.2 回 vs26.4±21.1 回 p<0.57)と有意差は見ら  
27 れないのに対し、体位変化 AHI は (5.8±10.1 回  
28 vs18.7±17.3 回 p<0.005)、visualEF は(52±17%  
29 vs40±15% p<0.03)と明らかな有意差を認めた。体  
30 位変化 AHI 以外に有意差を認めたため、体位変化 AHI  
31 の独立性を検証するために多変量解析で検討したが、  
32 体位変化 AHI はオッズ比 0.79、95%信頼区間  
33 0.664-0.955 (p<0.014)と独立した影響因子であっ  
34 た。【結論】CSR 所見のある患者は、体位での AHI 変  
35 化に差がなく、心機能は OSA 群よりも低下していた。  
36 そして多変量解析より、体位変化そのものが多因子  
37 を考慮しても CSR の影響因子となることが示唆され  
38 た。